



# 昭和大学歯学部だより

2022年2・3月号

通算第215号

## 令和3年度 卒業式・学位記伝達式が開催されました

＜歯学部長 榎 宏太郎＞



令和3年度の昭和大学卒業式と学位記伝達式が、3月16日にパシフィコ横浜において執り行われ、医学部109名、歯学部96名、薬学部174名、保健医療学部161名が御卒業されました。春のような陽気にも恵まれ、厳粛な中にも慶に満ちた式となりました。卒業式では、根岸宗一郎君が歯学部総代として久光学長より学位記を授与されました。

学長告示では、大谷翔平選手が高校生の頃に掲げた目標とその達成のために自身に課した練習のエピソードから、目標立案の重要性と強い意志の必要性が紹介されました。そして、小口理事長からは、病む人々への慈しみを忘れずに医療人としての誇りを持ち続けるようにとの力強い御祝辞を頂いております。

続く、学位記伝達式は、学部ごとに隣接のアネックスホールに移り、和やかな雰囲気の中、各人への学位記授与と特別表彰、記念品贈呈などが行われました。

卒業生の皆様が、昭和大学の思い出とともに、素晴らしい人生を歩まれるよう祈念致しております。

## 第115回歯科医師国家試験が実施されました

＜D6チューター会議 船津 敬弘＞

第115回歯科医師国家試験が1月29日、30日の2日間実施され、本学は蒲田にある東京工科大学で、他の関東圏の大学と共に受験をいたしました。本年度は96名の卒業生を国家試験の場へと送り出しましたが、コロナウイルスの感染拡大の状況下でも、卒業生は一人も欠けることなく受験できたことは何よりでした。そして3月16日に発表があり、本学の新卒は85名合格の88.5%と過去10年で最も良い結果となりました。既卒生を含めた全体の合格率も81.4%と国公立含めて全国2位の好成績を収めることができました。この結果は本人達の頑張りも相当なものですが、多くの教員や、学務課を中心とした関係者の方々の多大なご尽力によるものと考えております。本当に皆様ありがとうございました。

- P.1 【令和3年度卒業式および学位記授与式が開催されました】 歯学部長 榎 宏太郎教授  
【第115回歯科医師国家試験が実施されました】 D6 チューター会議 船津 敬弘教授
- P.2 【定年退職に際して】 口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二教授  
【定年退職に際して】 地域連携歯科学部門 丸岡 靖史教授  
【受賞】 令和3年度上條賞・同窓会賞・上條旗ヶ岡賞受賞者紹介 上條 竜太郎教授
- P.3 【受賞】 歯周病学講座 小出 容子講師  
【受賞】 大学院4年（顎顔面口腔外科学専攻） 池崎 かおり先生  
【受賞】 大学院4年（歯科矯正学専攻） 宮澤 平先生
- P.4 【CBTが開催されました】 CBT 実施責任者 鈴木 規元教授  
【OSCEが開催されました】 OSCE 委員会 菅沼 岳史教授  
【初年次体験実習で歯科病院見学を実施しました】 富士吉田教育部 前田 昌子准教授

## 定年退職に際して 口腔機能障害に向き合った40年—皆様に感謝申し上げます。— <口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二>



1977年4月に歯学部第一回生として入学以来、平成、令和を駆け抜け、定年退職を迎えました。学生時代は教育委員を5年間務め、部活は柔道部で、全歯体個人戦では6学年まで決勝に進み、上條旗が岡賞を受賞しました。大学院は道健一本学名誉教授のご指導の下、口腔外科のイロハを学ぶとともに構音障害に関する研究で本学最初の歯学博士号を授与して頂きました。1990年から2年間米国で Groher 博士の下で嚥下障害の対応を学び、1994年から2年間癌研究会附属病院で頭頸部癌手術の研究を積み、2004年6月新設の口腔リハビリテーション科の科長として口腔機能障害の診療に邁進してきました。当科のオリジナル技術を含めた先進的な診療を求め、北海道から九州まで全国から患者さんがいらして下さっています。退職に際しては歯学部卒業生として初めての名誉教授のご承認を賜りました。この場をお借りし、お力添えを頂いた学内外の先生方、職員の皆様そして素晴らしい結果をもたらして下さいました患者様の皆様に心より感謝申し上げます。45年の長きに亘り誠に有難うございました。

## 定年退職に際して <地域連携歯科学部門 丸岡 靖史>



東京女子医科大学から2009年6月に母校昭和大学に移り12年間あったという間でした。超高齢社会となり歯科の需要が変化し、全身疾患をもったハイリスク患者が増加しています。地域包括ケアや多職種連携のチーム医療に参入して口腔機能管理を行うことができる歯科医師の養成が急務であると考えました。教育面では3年生の地域連携歯科医療実習 II では、近隣の開業歯科医療機関で地域包括ケアを理解した上で、歯科診療を体験します。5年の病院歯科実習・地域連携歯科医療実習 III(在宅歯科)では、入院患者の周術期口腔機能管理を急性期・回復期・慢性期さらに在宅診療に至るまで学ぶ体系的な実習を行いました。研究面では、口腔内細菌と全身疾患との関連に関する研究を、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、血液内科、口腔微生物学、口腔衛生学、歯科薬理学講座との共同研究を行い一定の成果を収めることができました。4月から地域連携歯科は医科歯科連携診療歯科と名称を変更いたしますが、更なる発展を期待しております。

## 令和3年度上條賞・同窓会賞・上條旗ヶ岡賞受賞者紹介 <学生部長 上條 竜太郎>

上條賞	根岸 宗一郎
同窓会賞	岩瀬 りさ
	岩田 理沙
	北株 賢太郎
上條旗ヶ丘賞	北崎 航



## 行事予定

4月 2日(土) 大学院入学式  
 4月11日(月) 入学式・入寮式

## 日本歯周病学会最優秀臨床ポスター賞を受賞しました

＜歯周病学講座 小出 容子＞

この度、第64回春季日本歯周病学会学術大会で発表した「人工骨移植による歯周組織再生療法を行った17年経過症例(小出容子, 鈴木基之, 宮下元, 山本松男)」が最優秀臨床ポスター賞に選ばれ、10月16日秋季学術大会(名古屋)で授賞式がありました。COVID-19感染拡大の中、授賞式に指導医の鈴木先生も来て下さいました。日本歯周病学会学術大会での表彰は若手研究者対象の賞を除くと臨床症例発表で審査が行われる優秀臨床ポスター賞(最優秀・優秀各1名)しかなく非常に身に余る思いです。卒後2年目から担当し、当時デジタルカメラがなく治療毎の経過写真を24枚撮りフィルム1本分撮り、現像された35 mmスライドマウントの口腔内写真を宮下名誉教授、鈴木先生、医局先輩の諸先生方に見て頂きながらご助言を受け、歯周治療のイロハを学ばせて頂いた思い出のある症例です。患者さんから教えて頂き学んだことを今後の臨床に活かし、初心を忘れず頑張りたいと思います。



## 口腔組織培養学会ベストプレゼンテーション賞を受賞しました

＜大学院4年(顎顔面口腔外科学専攻) 池崎 かおり＞

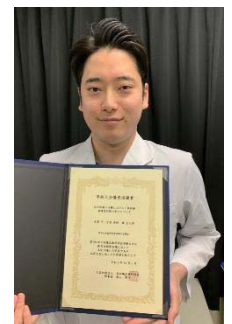
令和3年11月6日、三重大学主催で行われた第57回日本口腔組織培養学会・学術大会において研究発表をさせていただきました。様々な歯科領域の基礎研究が披露され、活発な質疑応答がなされました。発表させていただきましたことと併せて、興味を惹かれる内容が随所にあり、勉強になり有意義な時間を過ごすことができました。私は、「細胞外 pH は骨細胞による骨代謝回転調節を制御する」という演題で発表させていただきました。ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。大変うれしく思います。口腔外科では、炎症や癌等、組織の酸性状態を起こす病態との関わりがあります。医療において、病態を知ることは新しい治療法や新薬開発につながると考えております。受賞にあたり、これまでご指導いただきました上條竜太郎教授をはじめ宮本洋一教授、そして多くの先生方と関係者の方々のお陰と実感しております。心より感謝申し上げます。今後も日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



## 日本矯正歯科学会優秀ポスター賞を受賞しました

＜大学院4年(歯科矯正学専攻) 宮澤 平＞

2021年11月3日(水・祝)～5日(金)にパシフィコ横浜+WEB のハイブリッドで開催された第80回日本矯正歯科学会学術大会 & 第5回国際会議にて「外科的矯正治療における下顎前歯歯槽骨形態の変化について」の演題で発表させて頂き、優秀ポスター賞を受賞しました。自身のポスター作成にあたり、参加者に興味を持ってもらえるようなポスターをいかにして作成するか、榎宏太郎教授・芳賀秀郷先生に多大なるご指導とご尽力をいただき、万全の体制にて発表に臨むことができました。また発表の際の質疑応答では、先生方に別の視点からのご意見を頂くことで、今後の課題を発見することができました。その一方で、他大学の先生とお話する中で、自分がいかに恵まれた環境にて日々研究をさせていただいているのかと、改めて実感することができました。今回の経験を糧に誠に微力ではありますが、昭和大学の研究、臨床に貢献していきたいと思っております。



## CBTが実施されました

<CBT 実施責任者 鈴木 規元>

2月24日(木)に令和3年度共用試験CBTが実施されました。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年より1か月遅れの実施となりましたが、欠席者もなく4年生95名全員が無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室にて、榎歯学部長と飯島教育委員長の激励を受けたのち、朝9時から午後5時過ぎまで全320問の問題に取り組みました。学生は終始緊張の面持ちでしたが、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。共用試験実施評価機構からは東京医科歯科大学の荒木孝二名誉教授、東京歯科大学の山下秀一郎教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、運営状況や感染症対策など大変良好とのコメントをいただきました。あとは学生の好成績を祈るばかりです。試験監督をはじめ、CBT実施にあたりご協力いただいた先生方、学務課の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

## OSCEが実施されました

<OSCE委員会 菅沼 岳史>

2022年度共用試験OSCEが、1月9日(日)に歯科病院において実施されました。評価、運営に関わったスタッフは、総勢197名で、92名の学生が受験しました。今回は、コロナ禍のため、感染対策を充分に行った上で実施いたしました。

なお、来年度は不測の事態への対応を考慮して、年始を避けた1月22日(日)(前日準備21日(土))の予定です。

## 初年次体験実習で歯科病院見学を実施しました

<富士吉田教育部 前田 昌子>

11月に行われた初年次体験実習の学部実習は歯科病院見学を中心に3日間の日程で行われました。1日目は保険制度の理解を兼ねカルテ1号用紙の作成、ケーシー白衣の身だしなみチェック、手洗い実習、感染防護具を着用し相互の口腔内チェック、タービンやいろいろな歯科器具に触れ、翌日の見学に向けた心構えを養いました。2日目は朝富士吉田を出発し、歯科病院へ向かいました。午前中は実習室で顎模型の印象採得、石膏模型を作製しました。初めて触るアルジネートや石膏に興奮し、入学後初めて歯学部に入った気がしたという学生もいました。午後は3診療科を見学しながら、各科の特徴、治療内容を教えていただきました。初めて聞く単語も多く、目を白黒させながらも熱心にメモを取っていました。3日目は見学内容の発表を行い、見学していない診療科の様子を共有しました。コロナ禍で歯科病院内も通常とは言えない中、1年生の受け入れを推進してくださいました榎歯学部長をはじめ、歯科病院スタッフやご協力頂いた方々に感謝いたします。



昭和大学 歯学部だより 通算215号 2022年3月発行

発行責任者：歯学部長 榎 宏太郎 編集責任者：広報委員会委員長 野中 直子

2・3月号編集委員：深町 はるか(広報委員会)

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp>